

かわせみ通信 No.141

発行：彩湖自然学習センター（みどりパル） 発行日 2022. 11

季節のいきもの

～実のある植物のお話～

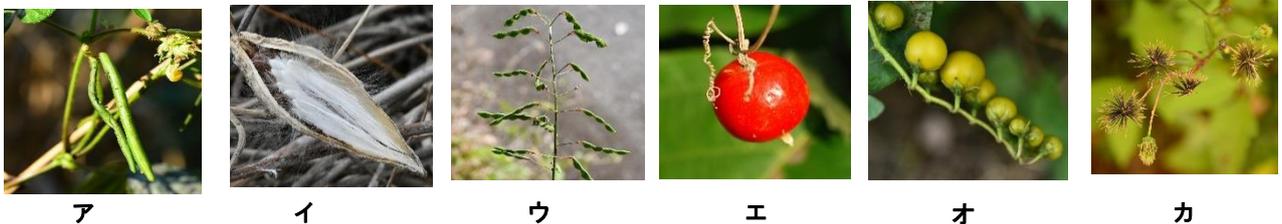
ススキやオギの白い穂が輝き、セイタカアワダチソウの黄色い花が色あせてくる季節になると、彩湖周辺では、おもしろい形の果実や種子をたくさんつけた野草が目につきます。

特に、カラスウリ、ヤブツルアズキ、ガガイモ、コセンダングサ、アレチヌスビトハギ、ワルナスビなどの果実や種子は、その中では圧巻です。

まず、これらの野草の花を紹介しましょう。



さてこれらの花はいったい、どんな果実や種子に姿を変えるのでしょうか。下のア～カの果実や種子から選んでみましょう。



答えは、①—エ ②—ア ③—イ ④—カ ⑤—ウ ⑥—オ

・カラスウリ（ウリ科）

果実は、赤く熟し中に黒色光沢のある種子が入っています。カマキリの頭・大黒天を思わせる形です。

・ヤブツルアズキ（マメ科）

果実は、豆果といい、中に6～14個の種子が入っています。アズキの原種です。

・ガガイモ（キョウチクトウ科）

種子は絹糸状の毛で実がついています。割れて風により飛びます。

・コセンダングサ（キク科）

種子はそう果といい、3～4個の棘があり、衣服につきやすいです。

・アレチヌスビトハギ（マメ科）

果実は盗人の忍び足の形に似ていて衣服につきやすいです。

・ワルナスビ（ナス科）

果実は淡黄色のミニトマトのよう。畑の雑草として悪ナスビの名がつけました。

実は、これらの野草はほとんどが一年で枯れます（一年草）。多くの果実や種子が確実に分布を広げ、芽が出るよう工夫と準備をしているのです。これこそが野草が生きのびていくための知恵なのです。

この時期、野草の楽しみ方として、果実や種子を探っていくのも一つの観察ではないでしょうか。

ぜひ、彩湖周辺に足を運んでみてはどうでしょうか。きっと、他の野草のおもしろい果実や種子を発見できると思いますよ。(W)

夕日に合わせた開館時間の延長

開館延長 11月23日（水）～12月28日（水）16:45まで
（悪天候の場合は中止）5階展望室と展望広場
16:15位からが見頃です。マスク着用をお願いします。



こうざあんない 講座案内(12月)

みなさん
こうざに
きてね!



カマリン

12月18日（日）「彩湖周辺の野鳥観察③」【市民大学認定講座】

冬鳥が出そろって観察に最適な季節になりました。双眼鏡や望遠鏡を使って、彩湖の野鳥を観察しに来ませんか。今年はセンター周辺を歩いて観察します。

◇対象：誰でも（小学2年生以下は保護者同伴）

◇定員20名

◇時間：10:00～12:00

◇参加費：100円（教材費・保険代）

◇持ち物：マスク、双眼鏡（貸出可）

※申込受付：11月18日（金）から電話のみ受付



★申込方法：電話でお申込みください。来館受付は当面中止します。各講座は定員になり次第、受付を終了させていただきます。なお、お申込みは講座の1か月前の10時から受け付けています。

※問い合わせ・受付時間：TEL:048-422-9991 10:00～16:30

※詳しくは彩湖自然学習センターホームページをご覧ください。

(<http://www.city.toda.saitama.jp/site/saiko/>)

